

1036. Vector lattice = 級ケル 作用素，拡大定理

小笠原 藤次郎(広島文理大)

汎函數，諸種，拡大定理へ vector 値函數，ハレヘ
適用 + 振正ニヨシテ一般化，可能性へ Kantorowitch =
於テ既知ノコトヲアルが同氏，論今が未發表デアリ又コレ等
ノ問題へ一應ハ考ヘラレルベキモノアリ自ム，「ノート」
ノ整理，タメニコソニ纏メテ見シイ。Hahn-Banach
ノ定理，正作用素，拡大・或ル種，連續性ヲ保存スル拡大。
大体コノ三ツニ分ケテ論ズル。

§ 1. Hahn-Banach 定理。

定理 1. X 線型空間， Y complete vector
lattice トスル。 $p(x) \rightarrow X$ 上ノ定義サレ Y ノ値域トスル

函数が次、性質を満たす。

$p(x_1 + x_2) \leq p(x_1) + p(x_2)$, $t \geq 0$ のとき $p(tx) = tp(x)$
今 $f(x)$ が X の部分線型空間 X_0 上で定義されたり値域を
とる additive, homogeneous + 函数が且つ X_0
上で $f(x) \leq p(x)$ が成立する。このとき X 上で定義
されたり値域をとる 次の性質をもつ additive homogeneous
+ 函数 $F(x)$ が存在する。

$$x \in X, t \neq F(x) \leq p(x), x \in X_0, t \neq F(x) = f(x)$$

(証) Banach 1本 27-29 頁参照。

定理2. 定理1=於て X が vector lattice で
 $p(x)$ が更に一次、条件を満たすとき $F(x)$ は regular
とする。

$$|x_1| \leq |x_2| \text{ かつ } p(x_1) \leq p(x_2)$$

(証) $x \in X$ を任意の正要素とし、 $0 \leq |x_1| \leq x$ のとき
 $|F(x_1)| \leq p(x)$ が成立するから $\{F(x_1)\}$ は (0)-有界となる
従って $F(x)$ は regular とする。

Y が complete vector lattice とするとき
 $y_1 + iy_2 \in Y$ の全体を $Y + iY$ 或 iY と書く。益 = $y_1, y_2 \in Y$
且つ $y_1 \neq y_1 + iy_2$ の実部分と云ふ

$$|y_1 + iy_2| = \sqrt{\sum_{c_1^2 + c_2^2=1} (c_1 y_1 + c_2 y_2)^2}$$

即ち $\sqrt{y_1^2 + y_2^2}$ が定義される。

定理3. X が complex normed space, Y が complete
vector lattice, $Z = Y + iY$ とする。

$p(x)$ は次 1 条件を満足する γ の値域トスル函数トス。

$p(x) = p(\|x\|)$, $p(x_1 + x_2) \leq p(x_1) + p(x_2)$, $t > 0$
トキ $p(tx) = t p(x)$.

今 $f(x) \in X$, 複素部分線型空間 X_0 上の定義サレ
タ Z の値域トスル複素線型函数 $|f(x)| \leq p(x)$ を満足
スルモノトス。コトキ X 上の定義サレタ Z の値域トスル
複素線型函数 $F(x)$ が存在シテ $x \in X$ トキ $|F(x)| \leq p(x)$,
 $x \in X_0$, トキ $F(x) = f(x)$.

(証) Bohnenblust, Sobczyk, Bull. A.
M. S. 44 (1938) 参照. $f(x) = f_1(x) + i f_2(x)$, $f_1(x)$,
 $f_2(x) \in f(x)$, 実及虚部分トスルベ $f_2(x) = -f_1(ix)$
 $x \in X$ が容易に分ル。而エ $|f_1(x)| \leq |f(x)| \leq p(x)$ が成立
スルカラ定理 (=コル $f_1(x)$ の拡大 $F_1(x)$ ト置キ
 $\bar{F}(x) = F_1(x) - i F_1(ix)$ ト置キ $x \in I$ が問題, $F(x)$ が
コトテ証スレベヨイ。

$x \in X_0$, トキ $f(x) = F(x)$ 入白明. $F_1(e^{i\alpha}x) = \cos \alpha \cdot F_1(x)$
+ $\sin \alpha \cdot F_1(ix)$ ヨリ

$$|\cos \alpha \cdot F_1(x) + \sin \alpha \cdot F_1(ix)| \leq p(e^{i\alpha}x) - p(x)$$

従々 $\ell.u.b.$ トスルベ $|F(x)| = \sqrt{F_1^2(x) + F_1^2(ix)} \leq p(x)$
トナル。

定理4. X が σ -complete vector lattice,
 $W = X + iX$ トシ Y が complete vector lattice
 $Z = Y + iY$ トスル. $p(w)$ が W 上の定義サレタ Y の値
域トスル 次の性質ヲモツ函数トスル. $p(w) = p(|w|)$,

$p(w_1 + w_2) \leq p(w_1) + p(w_2)$. $t \geq 0$, $t + p(tw) = tp(w)$
 今 $f(w) \in W$, 複素部分線型空間 W_0 上の定義され $Z \ni$
 値域トスル複素線型函数トシ $|f(w)| \leq p(w)$ が成立スルを
 1トスル。コトトキ W 上の定義されタ $Z \ni$ 値域トスル複
 素線型函数 $F(w)$ が存在シテ $w \in W_0$, $t + F(w) = f(w)$,
 $w \in W$, $t + |F(w)| \leq p(w)$

(証) 定理3, 証明ト同様。

定理3, 証明カラ分ルベウニ \times 分複素線型空間 Z
 $p(x) = p(e^{i\alpha}x)$ が満足サレルコトが此等の定理, 説明ニ
 充分デアル。

§2.

定理5. $X \ni$ vector lattice, $X_0 \subset X$, 部分線型
 空間, X_0 に正, 要素, X_0 要素デ majorize サレル
 (即チ $x \in X$, $x \leq x'_0 \leq x''_0$ + ル $x'_0, x''_0 \in X_0$ が存在
 スル) コトトキ X_0 上, 正要素ニ付シ正値 (0含メテ) ノト
 ル complete vector lattice ヲ値域トスル
 additive homogeneous + 函数 $f(x)$ ハ X 上,
 及び additive, homogeneous + 函数ニ拡大ナ
 レル。

(証) Krein, Smulian; Annals of Math. 41
 (1940) 558頁 lemma, 証明參照。

定理6. Archimedean vector lattice X
 上の定義サレタ 正, additive homogeneous + 函数
 (complete vector lattice の値域トスル) ハ X を含

△最小 complete vector lattice 上, 正, additive homogeneous + 函数 = 扩大サレル。

§ 3.

X が σ -complete vector lattice, Y が regular vector lattice. $X_0 \subset X$, sub-vector lattice (σ -complete ト 假定シ + 1コト = 注意) トスル。 X_0 上の実数セラレタ Y の値域トスル regular + additive homogeneous + 函数 $f(x)$ が $X_0 \neq \{0\}$ -有界 + $\{x_n\}$ が X の $0 = (0)$ -收敛スルトキ $\{f(x_n)\}$ が $0 = (0)$ -收敛スルトキ $f(x)$, 正部分及ビ負部分ニツイテ 同様, 性質ヲモツコトガ証明サレル (Y が実数空間, トキ Kantorovitch が証明シタ)。従ツテ $f(x)$ フ最初カラ 正トスル。

Saks 之本, 終り, 横分, 部分八泉, 中村氏ニヨツテ lattice term の翻訳リレタガ, コレハ 値域空間 \rightarrow regular vector lattice トシテモ成立スルコトガ容易ニ確メラレル。即チ泉, 中村氏, 形デ次, 定理が成立スル。

定理 1. $f(x)$ の部分 vector lattice X_0 上の正, additive homogeneous + Y の値域トスル函数 ニ次, 対応 σ -連續トスル。 $x_n \in X_0$, $\{x_n\}$ が $X_0 \neq \{0\}$ -有界, X の $x_n \rightarrow 0(0)$ トキ $f(x_n) \rightarrow 0(0)$. コノトキ 次, 性質ヲモツ X_0 を含ム σ -complete vector lattice L が存在シ $f(x)$ ハ次, 性質ヲモツ L 上, 正, additive

homogeneous + 凸数 $F(x) =$ 拡大出来る。 $x \in L$,

$F(z) = 0$, $|x| \leq z + \tau \forall x \in L$. $z_n \in L$. $z_n \uparrow z$

且々 $\{F(z_n)\}$ が有界, トキ $z \in L$ 且々 $F(z_n) \rightarrow F(z)(0)$

(注) $X \ni \sigma$ -complete lattice-ordered group

トシ σ 対應スル定理が得ラル。